

山田学区

社協だより

第 55 号

発行
山田学区
社会福祉協議会



ごあいさつ

会長 岡 顯朗

山田学区のみなさま、日頃は山田学区社会福祉協議会の活動に何かとお力添えをいただきましてありがとうございます。

早いもので、またたく間に一年が過ぎ、平成二十一年度も無事終えることが出来たことを皆様方のおかげと喜んでゐる次第でございます。

山田学区社協では、一人暮らしのお年寄りの方を対象とした事業がいくつかあります。

その一つが日帰りのバスツアーです。今年、近江八幡の国民休暇村へ行きましました。この日ばかりは、みなさん楽しい会話がはずみ、準備の整った施設での食事や温泉入浴、お買い物など楽しく過ごしていただくとともに、また次年度の再会を約束しました。

また、例年十二月には、心ばかりの品をお届けしています。そして、九十歳(卒寿)をむかえられた方

にはお祝いの品を、在宅で看護を続けておられる方にはお見舞いを、それぞれお届けしています。

このため、各町の福祉委員と民生児童委員さんが一緒に、あるいは手分けをして、それぞれのお宅を訪問させていただいております。そして、声を掛けさせていただき、お話をさせていただき、また相談をさせていただくこともございます。

このように一緒に小旅行をしたり、お年寄り宅を訪問させていただくことを通じて、お互いに顔が繋がります。強いては御近所力のアップにつながれば、これに越した喜びはありません。

これが、山田学区社協のキャッチフレーズ「ひろがれ やまだの 和・環・話」の精神とおもっています。地域の皆さんと一緒に「和・環・話」を広げて参りましょう。

「ふれあいサロン」って ご存知ですか？

山田学区社協では、高齢者の一人暮らし、高齢者の方々の世帯の方々を対象に年4回のふれあいサロンを行っています。お話を聞いたり、ゲームをしたり、おしゃべりをしたり、手作りの昼食をいただいたりと、楽しい一日を過ごします。

二十一年度も地域別の3回のサロンが終了し、2月5日には全地域を対象にロクハ荘で行われました。みんなで68名の参加のもと賑やかな楽しいひと時を過ごすことが出来ました。午後には、参加者皆さんのカラオケ大会が始まりました。次々にたくさんの方が歌って下さり、お世話をする私たちが皆さんからパワーをいただいた感じでした。また、はじめての知らない方とおしゃべりをし、新しい出会いをさせていただきました。本当に素晴らしい一日となりました。ありがとうございます。

また、今年もふれあいサロンのお誘いのお便りを出させていただきました。是非たくさんの方々の参加をお待ちしています。最後になりましたが、サロンの支援をいただきました。五三〇の会、たんぼぼの会、健康推進員、そして、日赤奉仕団山田分団の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

ロクハ荘



東部



北部



南部



平成二十二年度 社会福祉協議会

賛助会員紹介

本年も草津市社会福祉協議会賛助会員への募集を十二月に実施いたしました。山田学区では、四十二社(名)のご協力を頂きました。

この会費は草津市および山田学区内の社会福祉協議会が主催する各種の催し物に有効に使わせていただきます。

ここに、山田学区内でご協力いただきました会員の皆様に厚くお礼申しあげ、ご紹介させていただきます。

(敬称略・順不同)

- (有)久泉豊店
- (株)アヤシロ
- (株)ナカイテクノ
- (有)横江製作所
- (有)田淵鋳金
- 横江鋳金塗装(株)
- 相撲ちゃんこ 大岳
- (株)光真製作所
- (株)中島歯車工業所
- 藤田工務店(株)
- 福盛教材
- 浜口自転車店
- きよ香
- オートカム

- 居酒屋 きみちゃん
- お好み焼 田淵
- 中野製菓(株)
- 駒井工務店
- こまい酒店
- 園田瓦店
- 杉江酒店
- 広川電機(株)
- (株)久泉エンジニアリング
- (有)馬場自動車
- (有)馬場工務店
- 堀井歯科医院
- (株)テクノオーミ
- 膳所木材工業(株)
- 山一産業(株)
- 久保水道
- 西本電気工事(株)
- 久保産業(株)
- (有)馬場建設
- 髪結 愛
- (有)久保電気
- 平井自動車工業(株)
- くにまつフードサービス
- 川那辺整骨院
- 佐山水道工業(株)
- 中川商店
- すずか亭
- 京滋リネンサプライ(株)

ありがとうございます。

福祉講座

いま、一般的に65歳以上では10人に1人、85歳以上では4人に1人が認知症と言われており、この先ますます増えていくと言われています。こうした中で、周囲や身内の方のみならず自分自身もまた認知症になる可能性もあり、これもまた避けて通れないのが現実ではないでしょうか。そういう中で、今年の福祉講座として、合わせて福祉委員研修も兼ねて認知症サポーター養成講座を開催しました。



ビデオを見て、話し合いをします。まず、記憶障害や時間の認識障害のために、ごみを決められた日に出せない事例、そして、買い物、レジで金額を示されても、自分の財布にあるお金をどれだけ渡せば良いかが分からない事例での話し合いをしました。

認知症の場合、外見上からは分からない。また、家族の方も認知症と認めたがらないでしょうし、外に向かつて公表などしません。ですから、そのような事態に遭遇したとき、なんて奴だと軽蔑したり、うとましく思ったりするでしょう。でも、これが認知症の症状での1つでもあるとのこと。自分自身を戒めていくところ。自分自身を戒めていくところ。



やはり、地域でもって支えていくことが大切であると認識しました。またこういった精神でもって温かみのある地域になりたいものです。例えば話し合いのなかで、「町内会費を集めるに回すことは、一人暮らしやお年寄りにたいしてコミュニティケーションをはかる良い場となっていると思っております。年払いや、振込では得られない、交流の場を確保するため、時間が掛かりますが、毎月訪問していただきます。」との報告もありました。

山田学区 人権県外研修

学区社協、学区同推協と山田市民センター共催で山田学区人権県外研修が実施され、約50名の方が参加されました。研修地は奈良県橿原市の「おおくぼまちづくり館」と「水平社博物館」でした。



「おおくぼまちづくり館」では畝傍山の山裾にあった約二〇〇戸、一〇〇〇人あまりが住んでいた集落全体の強制移転により、大正7、9年にかけて自分達だけの手で、池、田畑、家屋、墓地、神社、寺院等を現在の「おおくぼ」に移したことを教わりました。ところが、当初移転先が受け入れを拒み、決着が付くまでが大変だったようです。しかしいろいろ調整後、やっとこの新しい土地に縦横に街路を配した画期的な整ったまちを作り上げてきたということでした。目障りだからと住み慣れた村から他地区へ全村移転させられるという不条理に対し、怒

りと悲しみを滲ませるの說明に、つらい歴史を経てこられた方たちの無念な思いの一端に触れたような気がしました。

後「解放令」により被差別部落民は形の上からは封建的な身分からは解放されましたが、現実の生活の中ではそうはならなかったの

で、橿原市の、西光万吉は阪本清一郎、駒井喜作らと共に長い不平等の歴史を変えるために「燕会」を経て水平社運動へと活動を広げていきまし

りとして受け継がれてきているということでした。



年度末の3月4日、山田学区ボランティア連絡協議会(ともしび・たんぼぼ・山田なごみの会・五三〇の会)交流会を山田学区市民センターで開催いたしました。参加は50余名で、情報交換やボランティアとしての悩み、困っていることなど互いに話し合い、よりボランティア間の交流を深めることができました。

ボランティア交流会の開催

ボランティア連絡協議会
藤井 清忠



た。そして大正11年3月3日に京都市岡崎公園で「全国水平社」創立大会が実施され、日本初の人権宣言「水平社創立宣言」が採択されました。その精神はその後の人権運動の礎として受け継がれてきているということでした。

この研修で昨今問題になっている家庭における子どもや、高齢者に対する虐待、学校や職場におけるいじめや各種ハラスメントなども含め、我々一人一人が「人権」問題の加害者や被害者になりうることも考えさせられました。人を人としてその尊厳を尊重し、いかなる人の人権も侵してはならないことを学ぶことができませんでした。朝早くから日没まで疲れも無く充実した研修でした。



最初に市社協指導員の方の指導で、参加者全員が握手を行い、手と手のぬくもりを感じながら笑顔であいさつ。そして参加のみなさんの疲れ具合を見ながら、いろいろなゲームなど、終日お世話になりました。

また午前中は市健康推進課の相井様より「うつへの対策とその講演をいただきました。年間3万人を越える自殺者があり、また「うつ症状」といわれる人の中にも

高年齢が増えていること、そしてその原因の多くが「ストレス」ということでした。今はどんな人でも「うつ症状」になる可能性があり、ともすればそれが命の問題にも及ぶということです。すぐそばに話し相手がいることも大切なことです。

山田学区社協の「活動の担い手づくり」という事業の中に位置づけられていることを認識し、私たちも日頃の活動を通じて地域の人たちの輪を広げながらがんばっていきたいと思いたい。

編集後記

今、アメリカでは20年後ぐらいには、火星に人を送る計画が進められようとしている。なんでも片道に半年かかるという長旅になるそうである。

「火星に人類はじめて一歩を踏出す」というニュースが、聞けるよう元気に過ごしてほしいですね。

